

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立星林高等学校

校長名：宇野 健二

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	学校評価の公表方法	現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
「時・場・礼を大切にし、自ら学び、考え、行動できる」生徒を育てつつ、これまで以上に地域の信頼、期待に応えられる地域中核校としての魅力ある学校を目指す。	本校公式ホームページに掲載（3月）		B	概ね達成している。（60%以上）
			C	あまり十分でない。（40%以上）
			D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月22日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	一人一人の生徒に応じたより豊かで多種多様な自己実現のための進路指導のさらなる充実。	A	意識付けと振り返りによるより効果的な個別進路啓発 低学年指導、次年度0学期指導等の初期指導の充実 補習、スタディーサポート、模試分析等による正確で実効的な入試指導	学年進路アセンブリー、進路講話、進路ホームルーム、面談等の計画的実施と充実 ・手帳、ポートフォリオ等の定期的な有効活用指導と充実 ・現職教育等での進路情報共有 ・特別補習、通常補習の質的向上 ・和歌山大をはじめ国公立大、私立大合格者実績の前年度比増。	B B A	適切な時期に、適切な内容で進路指導啓発が行えた。低学年からの精度の高い指導を徹底したい。 手帳の効果的活用については、課題を残す。キャリアパスポートのベースとして機能させていきたい。 総合型選抜、学校推薦型においては、本年度もきめ細かで粘り強い指導が実施できている。	現職教育等をさらに充実させ進路指導の方向性について教職員全体での共通理解を深め、その質を高める工夫を凝らしていく。国公立大学進学者を一定維持しつつ、豊かな進路実現のための進路指導のあり方やノウハウを明確化していく。
2	学習意欲、学力向上に向け自律的学習者としての成長をサポートするためのICT活用と適切な教育課程の編成、探究活動を中心とした主体的な学びの実践。	B-	効果的、効率的な学習支援のためのICT環境の最適な活用。 適正なクラス、学習集団規模による、手厚くきめ細かな学習指導、適切なカリキュラム編成 主体的、対話的で深い学びを実現するための探究的な活動の充実と深化	各授業でのICT活用事例の共有と教員研修、研究授業の実施 ・少人数クラスの効果の検証 ・観点別評価を含む総合的評価の適切な実施 ・実効的なカリキュラムの検討 ・「総合的な探究の時間」の学習内容の深化 ・研究授業等を通した「探究的」アプローチの検証と共有	B B C	教材提示等でのICT活用は一定できている。研究授業や公開授業の実施による深化が必要である。 物理的な問題を乗り越え、1年生少人数制を継続している。質の高い総合的な評価を推し進める必要がある。 進路指導とのリンク、効率的な展開、研究授業の実施等に引き続き課題を残す。	より質の高い総合的な評価に向けて、各教科とも課題を明確にし、取り組む必要がある。ICT活用を深化させつつ「主体的で深い学び」の定着に向けた実効的な取り組みを進めていく。
3	国際交流科を中心とする国際教育の充実、深化及び地域中核校としてのより特色ある教育活動の構築、展開。	B	より深い国際理解、国際交流のための校内・科内行事、イベント等のさらなる充実と質的向上 教育課程外の校外活動などの多様な学びの場への生徒参加支援 時代のニーズに対応しつつ、持続可能かつ魅力ある科であるためのあり方の模索	・各種セミナー、留学生受け入れ、姉妹校交流、講話、講演、校内大会等の実施の工夫と改善。 ・英検等資格受験者への積極的な支援、受験者増。 ・アジアオセアニア等校外国際交流活動への参加人数増。 ・学校説明会やホームページを利用した魅力の積極的な発信 ・これからの国際交流科のあり方についての校内での熟議	A A B	タイ訪問団派遣、海外研修旅行等、各国訪問団受入等、異文化交流活動を精力的に再スタートできた。 校外の「学びの場」での様々な活動へは積極的に参加を促せている。 あり方の熟議、積極的なPR等十分といえなかった。魅力をさらに明確化していく必要がある。	本校の最大の特色である国際交流、国際理解教育について、その今後の深化や発展に向けての検討、協議を充実させる。国際交流科実質志願者の増加を目指し、教育内容のさらなる充実とPR発信を行う。
4	生徒の実態に応じた、生徒主体の丁寧できめ細かな指導・支援と、活動意欲向上のための積極的な生徒支援。	B-	ポストコロナにおける学校行事の再構築と部活動の活性化 地域と連携した校外ボランティア、協同活動の充実 基本的生活習慣維持のための積極的な指導と、綿密な情報交換による丁寧な支援。	・安心・安全を最優先した行事の開催の工夫。 ・部活動加入生徒数前年度比増。 地域支援交流班、グローバルサポーターズの活動機会構築と活動内容の精選と充実 ・啓発等の予防的手立ての充実 ・遅刻・身だしなみ指導件数の前年度比減 ・情報交換会、ケース会議の効果的な実施	B A A	体育祭は熱中症対策として和歌山ビッグホエールでのインドア開催とした。包括的な部活動活性化を図りたい。 活動を精選、各種校外ボランティア活動や義援金募金活動等積極的に取り組み始めることができた。 ケース会議、いじめ対策委員会等必要に応じて、適切なタイミングで持て、確実な情報共有、対応につながった。身だしなみを含め、適切な生活指導も展開できている。	生徒支援については、課題を抱える生徒について、個々の教員、学年、組織内での情報共有をより綿密に充実させたい。 生徒が主体的に取り組む校内の自主的な活動についてさらなる活性化を学校全体として推進していく。

学校関係者評価（3月4日実施）

●学校としての方向性とあり方：

・星林高校として目指すべきゴールを常に明確にし、職員全体がしっかりと共通意識を持つことが大切である。
・一歩先を常に見越し、学校として今できることを「これから」に紐付けていく工夫をすべきである。

●進路指導：

・進路をしっかりと見据え自己実現につながる日々の「授業や指導」を展開していてもらいたい。
・さらに多くの国公立大進学者を輩出すべく、より力強く取り組んでいってもよいのではないか。
・海外への進学もコロナ明け、活発に進めていきたい。

●教職員の研修：

・研修情報を積極的に取り入れ、公的なものに加え、県内の各種任意的な研究会等にも積極的に参加を促していく。情報共有や校内への伝達等還元できる機会を充実させたい。

●学校の現状と評価：

・昔から変わらず、「星林はよい学校である」との評判は高い。
・文化祭や体育祭等の行事は楽しくすばらしいと声をよく聞く。
・昔に比べ「おとなしい生徒」が多くなっている感がある。

●学校の広報活動：

・学校行事や教育内容についてのPR活動を活性化したい。PTA活動を活用するのも手段として有効かもしれない。
・担任、学年、部活動顧問、様々な角度から学校での教育内容について情報発信していくことが大切である。
・英検一級、準一級を取得等、輝かしい活躍をしている生徒を様々な機会にもっと強くPRしていったらどうか。

●施設関連：

・学校施設に対する満足度が生徒、保護者とも低い。できる工夫をしながら施設改善に取り組んでもらいたい。

●家庭や外部との連携：

・家庭との連携を高めるべく、オンライン等のツールを活用しながら「教員や校長と語る会」といったオープンな企画も外に向けて設定してみたらどうか。

●制服について：

・時代の変化に伴い、柔軟に対応していくことが大切であり、ブレザー等を含め検討を進めていくことに大筋で賛成である。
・本校セーラー服の伝統である、★マークについてはなんらかのスタイルで継承して欲しい。

